

アイヌの人々の人権について

都城市立祝吉中学校1年 永友大晴

僕は小学5年生の頃、それまで住んでいたニュージーランドから日本に帰ってきました。ニュージーランドは英語の国なので、当時の僕は日本語よりも英語の方が上手に話せました。帰国した頃、僕は日本の授業に全く付いていけず、凄く不安な毎日を過ごしていました。先生が何を説明しているのか分からず、漢字も読めず、このままで僕は大丈夫だろうか、とても心配しながら学校に通っていました。

僕の父は昔、北海道に住んでいました。だから、僕は子どもの頃からアイヌの人々が日本人から差別を受けて苦しんでいた事を聞かされてきました。僕は日本に帰ってきた時、次は僕がこんな目にあうんじゃないかと怖くなりました。僕は日本人なのに日本の言葉があまり話せず、漢字の読み書きもできない、アイヌの人々と同じような境遇だったからです。アイヌ民族というのは、日本の北海道に住みながら日本語以外の言葉を持ち、体に入れ墨をしたり独特の文化を持つ民族です。僕がいたニュージーランドにもマオリ族という、そっくりな文化を持つ人達があります。マオリ族は今では普通に暮らしていますが、100年位前までは、移住してきたイギリス人にかなり苦しめられたようです。

アイヌの人々の悲劇は、北海道が日本にむりやり吸収された明治時代から始まります。信じられないことに、明治期から第2次世界大戦前まで使用された国定教科書にアイヌ民族は「土人(どじん)」と書かれていて、日本の学校に通っているのに日本人ではないような扱いを受けていたそうです。当然、学校でのイジメも相当なものだったと聞いています。

僕はニュージーランドの授業で、人種や民族で差別をしてはいけないと何度も聞かされていたのでアイヌの人々への差別について、とても気になっていました。

僕は日本の学校ではいじめられずに楽しく過ごす事ができましたが、昔のアイヌの子ども達は毎日学校に行くのが苦しくて、泣きながら通っていたそうです。

YouTube でアイヌ民族のインタビューを聞きましたが、学校時代に受けたいじめが大人になっても心の傷になっており、その頃のことを泣きながら話していました。

僕の考えでは、日本の学校には日本人の先生や生徒しかなくて、他の国の人と一緒に勉強するという機会が全くないので、自分たちと違う人がすごく変わって見えるのでしょうか。

ニュージーランドの学校には様々な人種の生徒がいました。マオリ人やイギリス人だけでなく、中国人やイラク人などのアジア人もいました。そして、先生まで様々な人種がいました。だから人と変わっているのが当たり前で、僕は最初に日本の学校に来た時、日本人しかいない教室がとても不思議に見えました。

しかし、自分達と姿形が違うからといって、差別をするのは、とてもいけない事だと思います。僕は自分がアイヌの人達と同じ立場なので、どうしても他人事のように思えません。つい、感情を入れて考えてしまいます。

今、祝吉中はとても平和でイジメのない学校ですが、もしここに僕のニュージーランドの友人だったデビットやジャクソンが入学してきたら、本当に安心して暮らせるか心配です。日本のみんなは、言葉も文化も違う外国人との生活に慣れていないからです。

僕にとって竹馬(ちくば)の友である彼らがもし、日本の学校に来ていじめられていたら、僕は必ず守るつもりでいます。なぜなら、僕が日本から一人でニュージーランドの学校に入学した時、英語の話せなかった僕に親切に接してくれたのは彼らだからです。

そもそも、なぜアイヌの人々はずっと日本に住んでいながら、いじめの問題に巻き込まれたのでしょうか?それは、日本人の、自分たちとは違う文化を受け入れられないという気持ちから来たのだと思います。

でも、自分たちの文化以外は認めたくないという考えをみんなが持ってしまったら、人種の問題はいつまでも解決しません。だから、自分たちと異なる文化にも興味を持ち、心を開いていくことが、これからの国際社会、日本を作っていく第一歩だと思います。

日本は世界でもトップの工業大国です。車もテレビも電気製品も、日本製は世界一の品質です。ニュージーランドの友達に僕が持っていた日本製のゲーム機をとてもうらやましそうに見ていました。これからオリンピックを開催しようとする先進国だからこそ、英語を勉強するだけではなく、みんなが様々な人種や文化を受け入れる心を持つ必要があると思います。

※第34回中学校人権作文コンテスト宮崎県大会 優秀賞受賞作文